



「新日鉄技報」 創刊100周年を祝う

代表取締役社長 **宗岡 正二**

当社の技術開発広報誌「新日鉄技報」が、このたび100周年記念号を発刊するに至りましたことは、誠に慶びに堪えません。

本誌は、1911年（明治44年）、当時の官営八幡製鐵所の製鐵研究会の「製鐵研究会記事」として創刊され、1925年（大正14年）に「製鐵研究」と改題されました。1950年（昭和25年）の八幡・富士製鐵への分割時には、八幡製鐵において「製鐵研究」が継承される一方、富士製鐵では「富士製鐵技報」が創刊されました。その後、1970年（昭和45年）の新日本製鐵発足に伴い、新たに「製鐵研究」として一本化し、1991年（平成3年）の「新日鉄技報」への改名を経て今日に至っています。

本誌は、創刊以来、時代の要請に応えるための、当社の技術開発力強化の一翼を担ってきました。また、当社内に限らず、広く、鉄鋼および鉄鋼に関連する業界、学会の皆様にも情報を提供し続け、我が国の技術発展に寄与してきたものと思っています。

本誌記念号の発刊は、前身である「製鐵研究」の70周年記念号以来30年ぶりとなりますが、この30年間の我が国を取り巻く経済情勢を振り返ると、1985年のプラザ合意による円高不況、1990年代初頭のバブル経済の崩壊、1998年のアジア通貨危機、2008年のリーマンショック等、極めて大きな変化に遭遇してきました。そして今日では、人口減少等により日本国内市場の大きな拡大は望めないなか新興国の台頭による市場拡大をいかに捕捉するか、資源の安定確保をいかに継続するかといった新たな変化や、更には、この3月に発生した東日本大震災からの復旧、復興という大きな課題に直面しています。

この度の震災では、日本国民のモラル、若者の社会貢献への意識の高さをあらため

て認識させられました。これは、日本人が持つ「現場」を大切にしているところの表れであり、当社が長年大切に受け継いできた「技術に対する思い」に通ずるものがあると思います。今後の復興に際し、わたくしどもも、できるだけのことを尽くしたいと考えています。

同時に、今後も伸びると想定される海外需要に迅速に対応すべく、エネルギー、資源を的確に確保しつつ海外での生産拠点の拡充を進め、全社一丸となって質・量ともに世界のトップレベルの鉄鋼会社としての地位を更に強固なものとしていかななくてはなりません。そのためには、今まで以上に創造性あふれる視点で技術開発を行っていかなくてはならず、その意味で、当社への期待は従来にも増して強いものがあると認識しています。本記念号の発刊を機に、意を新たに、社員一丸となって尽力していきたいと思えます。

関係各位の一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます、ご挨拶といたします。